

地域医療連携室をより

地域医療支援病院 登録医療機関 130件

2008年11月



外来図書室

「安全・安心」を求めて、 医療の質の向上と連携強化に努めています

副所長兼病院長 康 井 制 洋

こども医療センターの本館部分の再整備はいよいよ最終段階に入りました。念願の正面玄関は平成20年12月にオープンします。あわせて永年の懸案である患者専用の駐車スペースの造設工事も進み、来年の春には300台以上を収容できる駐車場が完成します。この完成によってようやく病院の顔である表玄関をお披露目することができます。長年にわたり大変なご不便をおかけしてまいりました患者さんやご家族、医療機関の皆様には、この場を借りてこころから御礼を申し上げます。

さて、当センターでは建物や駐車場ばかりではなく、安全・安心の医療を目標に医療の質の充実に努力しています。昨年度は中央手術室の生体情報モニタリングシステムすべてを最新機器に刷新しました。引き続き今年度は、周産期医療の要である新生児病棟の改修工事（NICU 6床増設）、未熟児新生児モニタリングシステム、医療・検査機器、療育器具などの大幅な整備を行っています。これにより最新鋭NICU21床を持つ国内最大規模の周産期医療施設が稼働します。今後も各部門の先進医療機器をはじめとする設備・機器の充実と療養環境の整備を進め、機器や施設の共同利用を含む病病連携、病診連携の推進に努めてゆく所存です。

こども医療センターは小児医療全般にわたる高度医療の実施を軸として周産期医療、三次小児救急医療、障害児の医療・教育等を提供する日本で唯一の総合小児医療福祉施設です。さらに今年度からは新た始まった厚生労働省のモデル事業「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」における診療拠点病院に指定され、児童思春期精神科と臨床心理室が中心となり様々な心の問題、児童虐待や発達障害に対応するため県内の各医療機関や保健福祉機関と連携した支援体制の構築を図る事業を展開しています。

病院は一瞬たりともその機能を停止することが許されない場所です。医療の質を充実し地域医療機関との連携を深め、患者さんやそのご家族をはじめ県民の皆様が安心できる小児医療を提供できるように日夜、職員一同で取り組んでまいります。



小児がん制圧を目指して



血液・再生医療科 気賀沢 寿人

小児がんは15歳未満の約7000人に一人発生します。急性白血病が一番多く約10万人に4人、次は脳腫瘍です。かつては治癒困難だった急性リンパ性白血病はTCCSGの治療法を行い80%以上治るようになりました。急性骨髄性白血病も当科が中心となって開発したANLL91を基礎として現在全国的なAML05まで進化し、80%前後長期生存するようになりました。脳腫瘍に対しては、手術、放射線療法、強力な化学療法と自家造血幹細胞移植を併用することで髄芽腫/PNETの成績も飛躍的に向上しました。進行神経芽腫の治療成績の向上は困難なため、我が国では尿VMA、HVAのマスクリーニングを行いましたが、進行例が減らず、当科では腫瘍検討会で基準を作成し自然経過を追い、自然消退することを明らかにし、休止の契機としました。最善の治療を行うため外科、放射線科、病理科、看護局などと緊密な連携をとり、こどもや家族に十分説明した上で実施しています。また新設された拘束感の少ないクリーン病棟15床を活用し、予後不良な小児がんに対する計画的2回の造血細胞移植の他、QOLを保つ移植の試みを行い、晩期合併症の少ない治療の開発も目指しています。



クリーン病棟
空気清浄度クラス 10000
15床のうち4個室がクラス 100



ナースステーション
キャップ・ガウン・マスク未使用



小児の最善の利益を追求した看護を行うために

クリーン病棟 井口 真理子

クリーン病棟は、乳児期から思春期までの造血幹細胞移植や強力な化学療法を受ける子どもを対象とした15床の病棟です。病棟の天井には超高性能フィルターが設置され、常に清浄度の高い空気が流れる構造になっています。病棟全体がきれいなため、骨髄抑制中や移植前処置中でも病棟内で子ども同士が交流し遊ぶことができ、治療中でも子どもの状態に応じて授業を受けることができます。

退院後は地元校に復学しますが、治療による影響が持続していることも多く、復学のための支援は不可欠です。子どもと家族を中心に、看護師、医師、養護学校教諭、保健師がチームとなって復学に向けたケアを連携して行っています。復学がスムーズに進むための支援の一つとして、病院から学校に伝える情報をパンフレットとして作成し、学校側に家族から渡しています。また、県立横浜南養護学校には専任のコーディネーターがおり、復学がスムーズに進むよう、個別の課題や必要に応じて、地元校と直接連絡を取り合うこともあります。

子どもは教育を受ける権利があります。がんの厳しい治療を乗り越え、がんばった子どもたちに継続した教育支援を提供していくことは、子どもの最善の利益を追求していくわたくしたちの使命だと感じています。





小児に対する“集学的”脳神経外科治療

脳神経外科 伊藤 進

脳神経外科では、脳・脊髄の腫瘍、水頭症、開放性髄膜瘤、脊髄脂肪腫などの潜在性二分脊椎、頭蓋縫合早期癒合症、もやもや病、脊髄空洞症、くも膜嚢胞など、種々の疾患を、こども病院の利点を生かし、各専門診療科と綿密に連携して治療にあたっています。

小児の中樞神経系腫瘍は悪性のものが多く、手術と平行して間髪入れずに化学療法や放射線治療を強力に行うことが必須であり、当院では入院時から血液・再生医療科や放射線科との協力体制を確立しています。とりわけ3歳未満のお子さんでは放射線の副作用が強いため、化学療法がより重要です。また、治療中や治療後のホルモン異常についても内分泌代謝科と連携するなど“集学的に”小児の中樞神経系疾患に対応しています。その結果、かつて難治であった髄芽腫などの悪性脳腫瘍も良好な治療成績を得ています。

さらに、頭蓋縫合早期癒合症では形成外科と合同で、骨延長器を使用した手術を先駆的に行っています。そのほか、治療後に生ずる種々の問題にも様々な支援を行えることが、当センターの最大の強みと考えています。今後も、一人ひとりのお子さんに最善の治療が行えるよう努力してまいります。



第6回 神奈川県立こども医療センター 小児科夏季セミナーご報告

総合診療科 松井 潔

8月2, 3日に恒例の小児科夏季セミナーを開催しました。本セミナーは、若手の小児科医を対象とした勉強会で、各専門科における診療の実際を講演してもらい、日常の臨床に活かしていただければという主旨で開始しました。セミナーの計画・講演はレジデント研修部会のメンバーが中心となり、地域医療連携室と共に行っています。昨年は参加者が少なかったため、今年は早期より計画し、神奈川小児科地方会、小児科関連学会で



ご案内をさせていただきました。小児科学会の専門医5単位の許可もいただきました。15の講義を行い、北海道から鹿児島まで75名の院外の先生に参加いただきました。大学病院・総合病院・小児専門病院の先生62名、開業医の先生13名、当院研修医16名が参加されました。「スライド原稿があらかじめ郵送されてとてもよかった」、「開業医にもオープンにさせていただき深謝します」等

のお言葉をいただきました。来年も、アンケートのご意見を参考に「明日から役立つ」実践的なセミナーを目指したいと考えています。そして、それぞれの講演の背景に流れるこども医療センターの「こころ」を伝えられればと思います。今後ともご支援のほどお願い致します。

神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行います。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第5回 母乳育児学習会

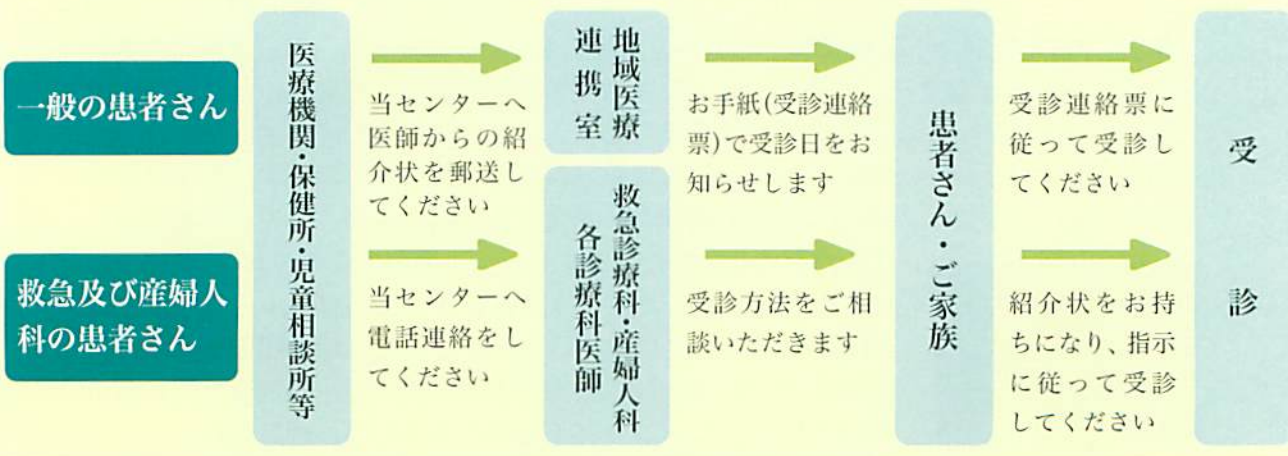
- ☆ 日 時：平成20年11月28日(金) 18:15～20:15
- ☆ 場 所：当センター本館2階講堂
- ☆ テーマ：「唇顎口蓋裂(口唇口蓋裂)を持つ赤ちゃんへの母乳育児支援」
- ☆ 担 当：越山 茂代助産師(つくみ助産院)
大山 牧子医師(当センター新生児科)

第77回 こども医療センター学術集談会

- ☆ 日 時：平成20年12月13日(土) 14:00～17:00
- ☆ 場 所：かながわ県民センター 2階ホール
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 横浜駅西口より徒歩5分
- ☆ テーマ：「環境がもたらすこどもへの影響」
- ☆ お問合せ：総務課 小柴

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 横浜市内南区六ツ川2-138-4 TEL 045 (711) 2351

FAX 045 (710) 1933

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo>

